

高岡の漆器

【産地の特色】

高岡漆器は、加賀前田家二代目当主、前田利長公の産業振興策のひとつとして始まった。当初は、箆^{たんす}、長持^{ながもち}、針箱^{はりばこ}、膳^{ぜん}などの生活用品や家具が主であったが、その後明和年間（1764～1772）に中国風の様式が取り入れられ、明治初期までに現在の高岡漆器の特徴である「彫刻塗^{ちようこくぬり}」「勇助塗^{ゆうすけぬり}」「青貝塗^{あおがいぬり}」の3技法が確立され、産地の名声を内外に高めることとなった。

これらの技は歴代の名工によって伝えられ、多くの名作が作られるとともに、国の重要有形・無形民俗文化財に指定されている高岡御車山^{みくるまやま}に凝縮されており、高岡の文化として今日に継承されている。昭和50年9月に伝統的工芸品として国の産地指定を受けている。

産地の特徴としては、高岡銅器と同様に工程別の分業体制が確立されており、事業所規模が小さいことが挙げられる。

【動向】

令和2年度の高岡漆器の販売額は、約2億3千万円であり、対平成30年度比44.1%減少している。売上減少の要因として、令和2年初頭からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあると推測される。

品種別の販売額の割合について、これまで「その他」に分類していた盛器^{もりき}、食器、酒器を対象として「盛器、食器等」の項目を新たに設けたところ、その割合は9.1%であった。

業種別の販売先割合は、直接小売の割合が35.5%であり、前回調査の28.9%から6.6ポイント上昇している。これはEC（電子商取引）等を通じた販売の増加といった理由が考えられる。

問屋業、加工業とも事業所数、従事者数は前回調査と比較して減少している。

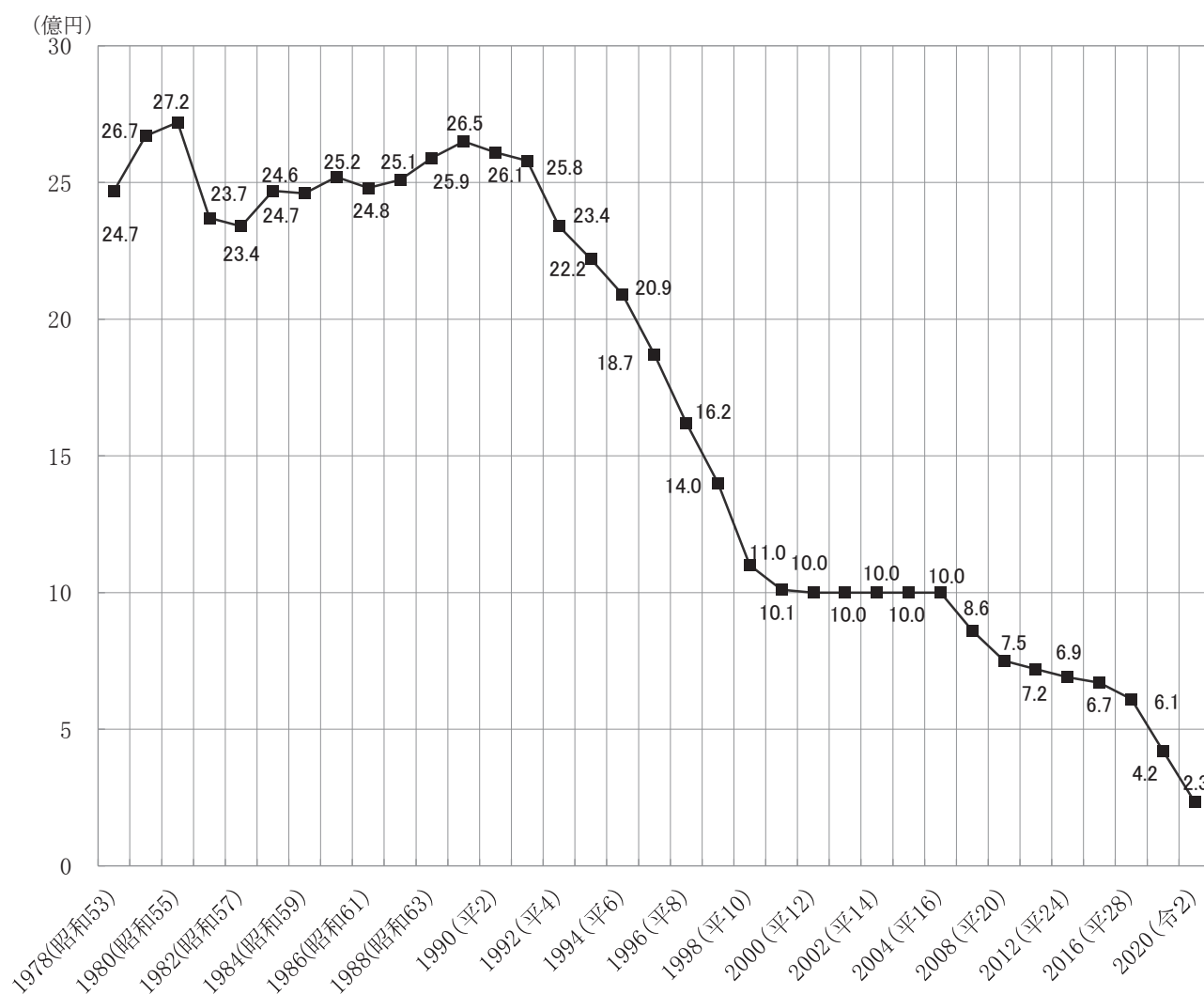
特に加工業従事者数を年齢構成別に見ると、60歳以上の割合が61.9%と前回調査時の74.2%から12.3ポイント低下している。これは70歳以上の技術者の引退等によって構成割合が変化したものと考えられる。

このように、技術者の高齢化による担い手不足と技術継承が大きな課題となっており、中でも「彫刻」を専門とする事業者は前回調査に続きゼロであった。このような中、高岡市デザイン・工芸センターや富山県が実施する技術継承事業の実施により、「塗り」など他の工程を専門とする技術者への技術継承がなされた。

高岡の漆器

【漆器販売額の推移】(単位:千円、%)

年	販売額	前回比
2012(平24)	690,238	-
2014(平26)	670,871	97.2
2016(平28)	618,313	92.2
2018(平30)	416,116	67.3
2020(令2)	232,553	55.9



高岡の漆器

【品種別販売額及び割合の推移】

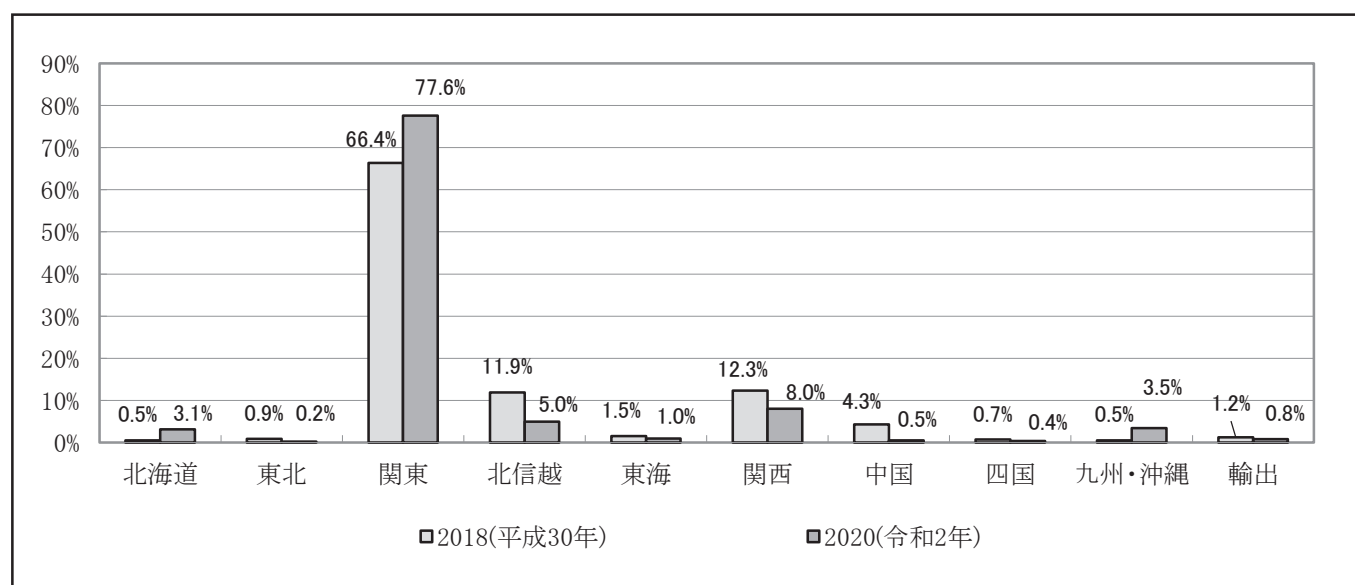
(単位:千円)

品 種	2020(令和2年)		2018(平成30年)		2016(平成28年)		2014(平成26年)		2012(平成24年)	
	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比
盆 類	35,478	15.3%	81,049	19.5%	138,820	22.5%	233,463	34.8%	277,364	40.2%
箱 類	32,064	13.8%	56,107	13.5%	75,300	12.2%	53,212	7.9%	66,592	9.6%
室内調度品	16,557	7.1%	45,377	10.9%	68,247	11.0%	61,523	9.2%	49,049	7.1%
茶 道 具	15,274	6.6%	10,332	2.5%	14,362	2.3%	21,822	3.3%	33,100	4.8%
膳 類	5,404	2.3%	1,512	0.4%	609	0.1%	1,775	0.3%	4,316	0.6%
盛器・食器等	21,185	9.1%	-	-	-	-	-	-	-	-
そ の 他	106,591	45.8%	221,738	53.3%	320,976	51.9%	299,077	44.6%	259,817	37.6%
計	232,553	100.0%	416,115	100.0%	618,314	100.0%	670,872	100.0%	690,238	100.0%

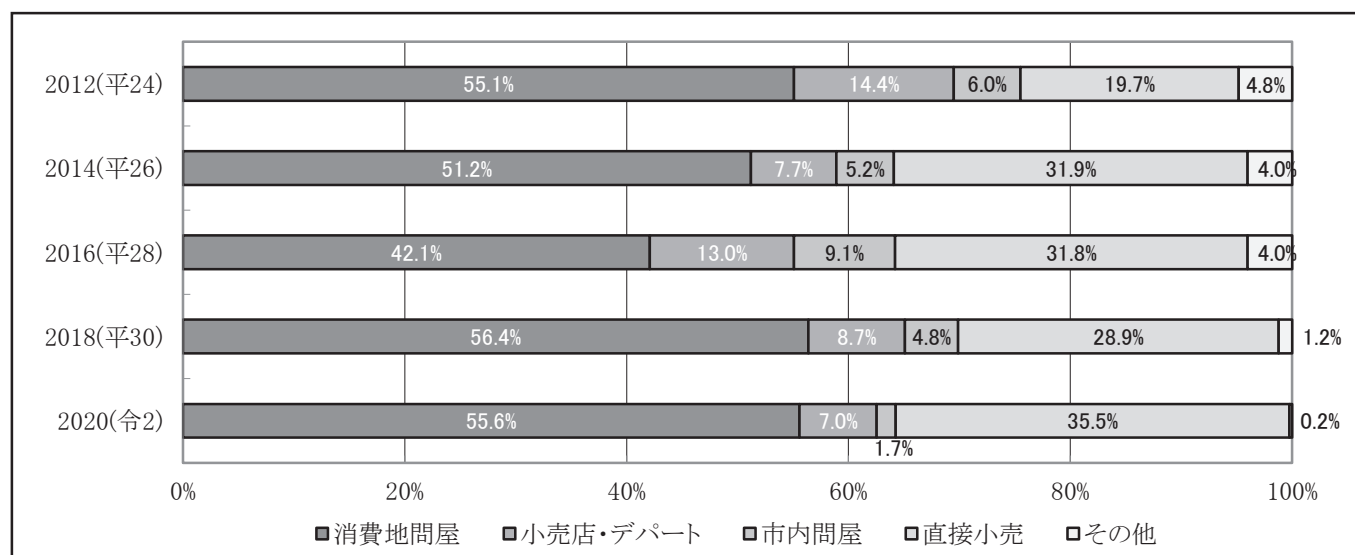
※盛器・食器等・・・盛器、食器、酒器(平成30年以前はその他に含む)

※その他・・・アクセサリ、日用品等

【地域別販売割合】



【販売先の業種別割合の推移】



高岡の漆器

【製法別事業所数と生産額】

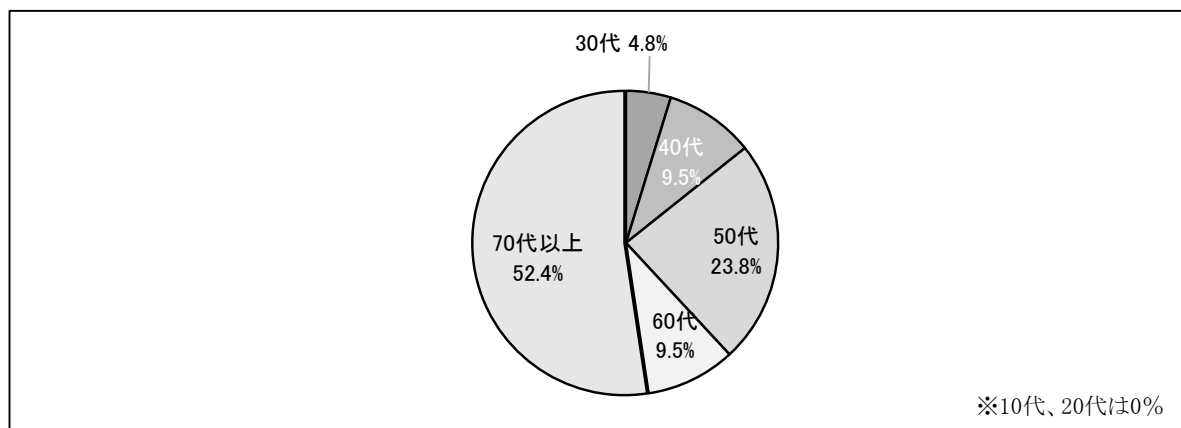
(単位:千円、%)

製法	2020(令和2年)			2018(平成30年)			前回比	
	事業所数	年間生産額	構成比	事業所数	年間生産額	構成比	事業所数	年間生産額
木 地	2	4,915	11.8	2	8,724	12.7	100.0	56.3
彫 刻	0	0	0.0	0	0	0.0	-	-
青 貝 等	2	17,697	42.3	4	32,985	47.8	50.0	53.7
塗 り	8	19,214	45.9	12	27,245	39.5	66.7	70.5
計	12	41,826	100.0	18	68,954	100.0	66.7	60.7

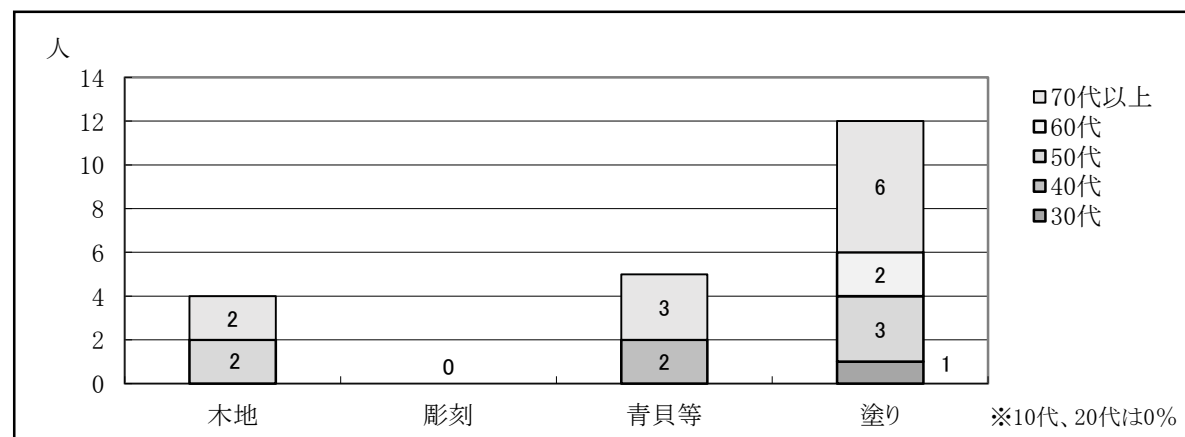
【事業所数と従事者数】

業種		2020(令和2年)		2018(平成30年)		前回比(%)	
		事業所数	従事者数	事業所数	従事者数	事業所数	従事者数
問屋		8	40	10	74	80.0	54.1
加工	木 地	2	4	2	4	100.0	100.0
	彫 刻	0	0	0	0	-	-
	青 貝 等	2	5	4	8	50.0	62.5
	塗 り	8	12	12	19	66.7	63.2
計		20	61	28	105	71.4	58.1

【加工従事者の年齢構成割合】



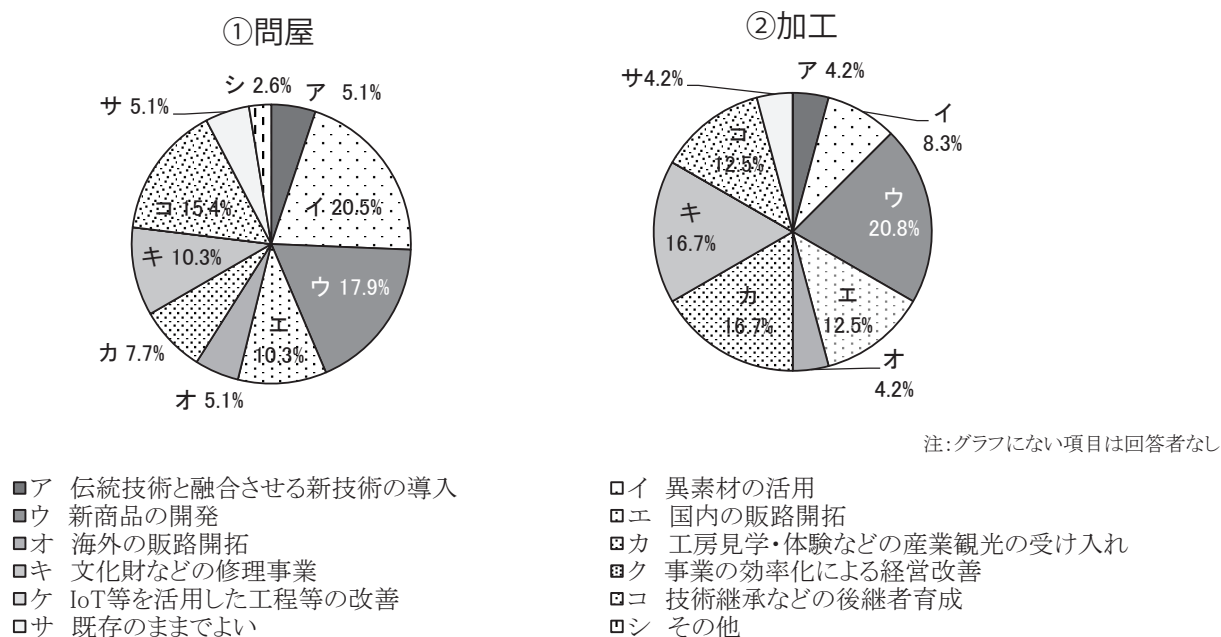
【加工従事者の年齢構成(製法別の内訳)】



高岡の漆器

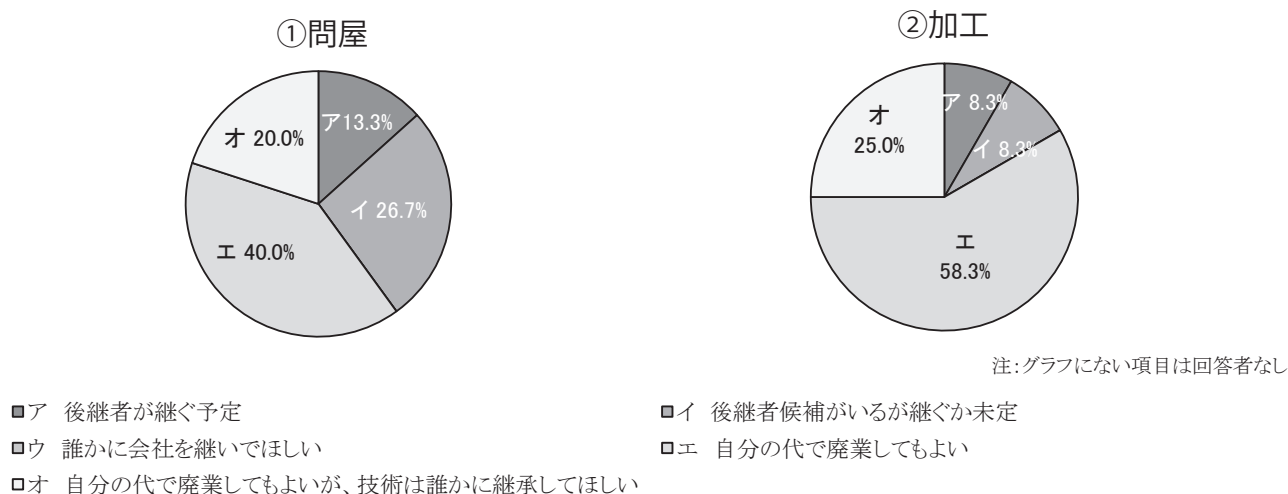
【意識調査について】

1 今後の方向性



問屋は「異素材の活用(20.5%)」が最も高い。販路開拓については、「国内(17.9%)」が「海外(10.3%)」を上回っており、コロナ禍による国内市場回帰の傾向がみられる。また、加工では「新商品の開発(20.8%)」が最も高く、「工房見学・体験などの産業観光の受け入れ(16.7%)」「文化財などの修理事業(16.7%)」の二つが続いている。問屋、加工いずれにおいても、時代に適応した新商品の開発や、新分野への参入等への意識が高まっていることがわかる。

2 後継者について



「後継者が継ぐ予定(問屋13.3%、加工8.3%)」「後継者候補はいるが継ぐか未定(問屋26.7%、加工8.3%)」であった。それ以外の回答「誰かに会社を継いでほしい」「自分の代で廃業してもよい」「自分の代で廃業してもよいが、技術は誰かに伝えたい」は後継者候補も不在の状況であり、その中でも「自分の代で廃業してもよい」が問屋で40.0%、加工で58.3%と高い状況になっている。